

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	・前年度は、学校教育目標を達成すべく、年度初めに重点目標を定め、各評価項目について取り組んだ結果、12項目中「十分達成できた」評価が、8項目であった。 ・時間外在校等の平均時間は30時間であった。部活動顧問の担当者が、平均時間を越えるケースが多いため、休業日の積極的な確保を勤めている。 ・3年生全員の進路保障をする事が出来た。76%が就職、24%が進学であった。就職試験対策等の指導体制が確立しており、継続して個々の進路に応じた指導と県内就職率増に取り組んでいる。
------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	〇地域及び日本のものづくり界に専門性を有する人材を輩出してきた伝統を受け継ぐとともに、ロボット技術等の分野横断的な取組、先端技術と融合した教育を実践する。 〇技術革新が加速する時代において、地域及び日本の産業界を牽引し、高い倫理観をもって、人々が暮らしやすい安全性の高い社会を創造できる工業技術者を育成する。
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー 1 基本的な知識・技術を活かし、加速する技術革新に挑戦できる資質・能力の育成を目指す。 2 広い視野で産業界を牽引できる資質・能力の育成を目指す。 3 豊かな人間性と創造性を備え、安全意識と倫理観を持った社会に貢献できる工業技術者としての資質・能力の育成を目指す。	カリキュラム・ポリシー 1 工業技術基礎、専門的な知識・技術の習得などにより、体系化されたものづくりの基盤を築く。 2 工学の知識・技術と、職業や専門分野に応じた知識・技能の習得を目指す。 3 産業界では、ものづくりに関する「課題の発見」「課題の解決・研究」「制作・実験」「整理・分析」「説明」などの能力を育成する。 4 1～3において、基礎知識と活用技術、主体的かつ協働的な学び、探究のプロセスを学ぶ。 5 1～3において、地域の教育リソース、ICTなどを活用し、実習フィールドのアンダーグラウンドを開拓する。 6 バランスの取れた心身の成長を目指すために、各種活動では定期的な休業日を設定し、家庭学習と部活動などの確立を図る。	グラデュエーション・ポリシー 1 基本的な知識・技術を活かし、加速する技術革新に挑戦できる資質・能力の育成を目指す。 2 広い視野で産業界を牽引できる資質・能力の育成を目指す。 3 豊かな人間性と創造性を備え、安全意識と倫理観を持った社会に貢献できる工業技術者としての資質・能力の育成を目指す。
-------------	--	---	--

4 本年度の重点目標	①基礎的・基本的な知識、技術、学力の定着を図り、社会を担う資質・能力を育成する。 ②生徒の創造性と課題解決能力を育成するための実践的な工業教育を推進する。 ③県内外の産業界との連携を強化し、企業説明会、ガイダンス等を実施し、生徒のキャリア形成を支援する。
------------	---

5 重点取組内容・成果指標				中間評価		最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「わかる授業」の実践と学習意欲の向上に向けた学習指導の改善	○「わかりやすい授業」になっている」生徒80%以上 ○「深く考えたり、意見を述べたりする機会がある」生徒60%以上	・授業アンケート(年2回) ・教職員間相互授業参観(年1回)を実施する。	A	「わかる授業」の実践と学習意欲の向上に向けた学習指導の改善はおおむね順調に進捗しており、生徒の学習意欲向上に一定の効果が見られる。授業アンケートでは「わかりやすい授業になっている」という意見が83%、「深く考えたり、意見を述べたりする機会がある」という意見も50%を超えており、改善の兆しが見られる。しかし、目標値には達しておらず、更なる改善が必要である。教職員間相互授業参観を11月に実施する予定である。	A	・教職員間相互授業参観を11月に実施し、生徒の学びを深める授業づくりに努めた。職員の授業参観率は、73%であった。 ・授業アンケート結果から、多くの生徒が授業内容を理解できていることが分かったが、今後は生徒が主体的に学び、互いに学びを深められるような授業を目指し、教材研究や授業設計に継続して取り組む。	A	・目標が達成されており素晴らしいと思います。 ・少数ながら、アンケートで「わかりやすい」と答えている生徒さんがいるため、フォロー体制があると良いと思います。 ・教職員間相互授業参観はすばらしい取り組みだと考えますので、ぜひ参観率の向上をお願いいたします。 ・「わかる授業」その時その時で難しい課題と思いますが、先生同士の授業を見学・検討評価する事は大事だと思います。 ・教え方一つで、生徒が一生懸命勉強に励む可能性もあり、今後も先生同士切磋琢磨していただきたいと思っています。	○教務主任 (主幹教諭、各学年主任、各教科・学科主任)
	○資格取得の推進 ・各科における重点資格と検定試験の合格者の増加 ・ジュニアマイスター顕彰の取得者の増加	○「今年度、資格を取得した」生徒90%以上 ○ジュニアマイスター顕彰取得者数を100名以上	・科の職員や担任と連携して資格取得者を増やす。 ・難易度が高い資格・検定を積極的に挑戦させる。	B	「今年度、資格を取得した」生徒は70%を超えており、生徒の資格取得への意識の高まりが見られる。ただし、目標値である90%には達しておらず、更なる取り組みが必要。難易度が高い資格・検定への挑戦も一部にとどまっており、生徒の積極性を更に引き出す必要がある。引き続ききめ細やかな指導を強化することで、目標値達成を目指す。	B	・今年度は、ジュニアマイスター顕彰において、ゴールド16名、シルバー27名、ブロンズ44名、計87名の生徒が認定され、顕著な成果を収めた。特に、専門外の資格取得に積極的に挑戦する生徒が見られた。継続して、専門分野に特化した資格取得も推奨し、生徒一人ひとりの意欲に応えられるよう、情報提供と補習体制を構築を目指す。	B	・資格取得は生徒さんの学習の励みにもなり、とても良いことではないかと思いますが、資格取得することは、将来社会に出た際に役立つ良い経験となります。資格取得は学校教育の全てではありませんが、社会に出るとその重要性を実感するとあります。 ・資格取得が就職に有利かどうかは企業によって判断が異なりますが、資格は個人の財産となることは間違いありません。終身雇用が当たり前ではなくなった現代において、資格は多様なキャリアを歩む上で、困難に直面した際の助けとなるはずですので。	○工業教育主任 各工業科主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○様々な教育活動で、「自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心等を涵養する事できた」生徒90%以上	・特別活動における学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動を通して、豊かな心を身に付けさせる教育活動を行う。 ・情報モラル、SOSの出し方、人権・同和教育等の講演会を実施し、様々な課題について考える機会を設定する。 ・工場見学、インターンシップを通して、ものづくりの知見、将来への考えを深める。	B	生徒たちは、学校行事や生徒会活動、ホームルーム活動などに積極的に参加し、協力することの大切さや責任感を感じ、豊かな人間性を育んでいる。しかし、一部の生徒においては、まだ受動的な姿勢が見られるケースがあり、主体的な学習を促すための工夫が必要である。人権・同和教育でLGBTQに関する講演会は、生徒たちの意識啓発に一定の効果も上げた。より深い理解を促すためには、講演会後の振り返りや意見交換の機会を充実させる必要がある。	A	・体育祭や文化祭では、生徒たちが協力し合い、一つの目標に向かって努力する姿が見られた。また、職場・工場見学やインターンシップでは、社会の仕組みや多様な価値観に触れる貴重な体験となった。保護者アンケートでも9割以上の「生徒が多様な価値観に触れ、他者への理解を深めることができた」という肯定的な評価を得た。今後も、時代の変化に対応した教育活動を継続し、生徒たちの豊かな成長を支える。	A	・様々な活動に取り組まれており豊かな心が育まれている。 ・AIが人間よりも賢くなってゆく中で、人間の倫理観や豊かな心はますます重要になると感じます。	○教務部 情報管理部 保健厚生部 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的にやっている」と認識している生徒が90%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができておりと回答した教員80%以上	・「学校生活アンケート(年3回)」 ・教職員やスクールカウンセラーとの連携を密にし、早期発見・早期対応に努める。 ・生徒が安心して学校生活を送ることができるように相談環境を整える。	A	いじめアンケートは1学期に1回実施し、23学期も1回ずつ実施予定である。ICT機器を利用して、アンケートを行うことで、素早く対応することができた。教職員においては、いじめ防止等に関する組織的な対応体制の構築が進み、丁寧に問題解決につなげた。	A	・各学期に実施したアンケート調査に加え、1学期から生徒とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築くことで、いじめの早期発見・解決に努めることが出来た。いじめが疑われる事案については、担任、管理職、関係職員が連携し、生徒の気持ちに寄り添いながら、丁寧に対応した。また、スクールカウンセラーとも連携を図り、生徒が安心して相談できる環境づくりに努めた。	A	・関係者と連携して、十分な対応がなされていると思います。 ・現在の取り組みを維持し得るは専門家などの採用も視野に入れる方が、教員の業務減に繋がると感じます。	○教育相談担当 生徒指導部 教頭
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○睡眠、食事、運動を十分に取ることが意識した日々を送る生徒を90%以上	・「食育アンケート(年1回)」 ・「保健だより」において、質の高い十分な睡眠、バランスの取れた食事、適度な運動の必要性について具体的な情報を掲載すること、生徒の意識付けを行う。	B	毎月発行の「保健だより」を通して睡眠や運動の重要性についても啓発活動を行っている。生徒一人ひとりの生活習慣を把握することと継続し、個別指導や健康相談などを実施することで、目標達成を目指す。	B	・「保健だより」による継続的な情報提供を通して、睡眠・食事・運動の重要性を生徒が具体的に啓発した結果、「食事・健康に関する調査」では、ほぼ全員の生徒がこれらの重要性を理解していることと回答した。 また、9割以上の生徒が簡単な調理ができることと答えており、意識啓発は十分に進んだと考えられる。 しかし、好き嫌いの多い食事でいる生徒は、5割以下に留まっており、実践的な食育を通して、生徒が積極的に食に関わる意欲を高める必要がある。	A	・この年代での健康な体づくりは大切だと思いますが、生活習慣での教員の管理は大変だと思う。家庭内での協力や専門家が必須だと思う。 ・校内販売の捕食については、もし販売するのであれば、この目的に近づきカロリーなどを考慮した食物を販売すべきだと思います。	○保健厚生主事 食育推進担当者
	●業務の見直し、効率化の推進と教職員の勤務体制の改善	●「時間外在校等時間(月45時間、年360時間以内)」を意識して、勤務できている」教員90%以上	・毎週火曜日、定期考査期間、長期休業期間に、定時退勤日を設定。 ・欠席・遅刻等の連絡等のオンライン化の推進 ・日報、各種会議資料等のデジタル化を図り、紙文書を印刷する時間の削減を図る。	A	・教職員の時間外在校等時間は9月末現在で平均約29時間。昨年度と同様となっており、定時退勤日の設定や業務効率化の取り組みが一定の効果を出している。部活動の指導では、休養日の積極的な確保を動いている。	A	・ICT機器の活用による業務効率化を進め、教職員の働き方改革を推進した。具体的には、eポートフォリオの活用による進路指導の効率化、定期考査等の採点業務のデジタル化検証、職員会議等のペーパーレス化などを実施した。その結果、2月末時点で教職員の平均時間外在校等時間を30時間以内に抑え、目標を達成した。また、部活動においては、休養日の積極的な確保を促し、生徒の健全な活動を支援した。	A	・時間外在校等時間を目標の30時間以内に抑えられている。引き続き業務改善の継続をお願いしたいと思っています。 ・今の世の中何の仕事にもなくコンプライアンス等の業務も増え増加しています。人と人が相交え教育する教職員にはAIは向きませんが、雑業務などには採り入れたらどうかと思います。	○教頭 主幹教諭 教務部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教育行政職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・「スクール・ミッション、スクール・ポリシー」を達成できるように学習環境の改善、整備を行う。 ・教職員が担当しているICT業務の軽減に向けた取り組みを行う。	B	・教育行政職員は、学校運営に積極的に関与し、教職員と連携して業務に取り組んだ。ICT活用による出張申請や休職申請の業務も開始し、教職員の負担軽減に効果が見られた。	B	・学校運営に積極的に関与し、教職員との連携を深めながら、業務を遂行した。特に、9月より運用を開始したICTを活用した出張申請・休職申請システムにより、申請業務の効率化を実現し、学校全体の業務改善に貢献した。	B	・学校運営に積極的に関与され、また、教職員と連携してICTを活用した業務改善がなされています。	○統括事務長 事務主任
	○特別支援教育を充実させ、特別な教育的支援を必要とする生徒を支える。	○「必要に応じて担任、部顧問、科の先生、または保健室や教育相談の先生等と相談ができる」生徒70%以上	・「学級担任と教育相談係、養護教諭、スクールカウンセラー等が情報共有し、適切な指導を行う。 ・「新入生対象の特別支援教育会議」を行い、学級担任、各工業科主任等と情報共有を行う。 ・特別支援教育に関する職員研修を行う。(年1回)	A	・支援会議等で、学級担任と教育相談係、養護教諭、スクールカウンセラー等との連携も強化され、情報の共有化が進んだ。継続して、教職員の特別支援教育に関する理解を深めていきたい。	A	・保護者アンケート調査では、90%以上の方から、担任・部顧問、学科担当教員、保健室、教育相談担当教員など、相談できる環境があると評価いただいた。また、スクールカウンセラーによる特別支援教育研修では、具体的な事例に基づいた支援方法や、発達障がいに関する理解を深める内容を実施した。	A	・相談できる環境が整っていることや特別支援教育研修を実施されている。 ・具体的取組を実践され、また保護者アンケートでの評価も高いと思います。	○教育相談担当 各学年主任
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○進路保障	○生徒・保護者の希望や要望をふまえ、生徒の能力や適性を考慮した指導を行う。	○進路意識の向上と、職業・勤労観を育成し、キャリア教育の推進を図る。 ○就職試験の1次合格者を95%以上を目指す。 ○国立(工業系学部学科)大学、工業高等専門学校編入の合格者数5名を目指す。	・卒業後の就職・進学先でのミスマッチを防ぐ観点からも、生徒や保護者への詳細な情報提供を行い、個人面談を積極的に行う。 ・進学者対策として、補習等で基礎学力だけでなく、応用力を向上させる。 ・面接や集団討論等の指導を早い時期より実施するなど、採用試験時の対策を行う。	A	・就職採用試験1次結果は、183名の受験生に対し、169名の合格、13名の不合格となった。不合格者に対しては、直ぐに2次に向けて指導している。(1次合格率92.9%) ・就職に関しては、11月を目処に全員の意向が決まると思われる。 ・進学に関しては、これら推薦入試が定まる。	A	今年度、185名の就職希望者と51名の進学者希望者全員が、内定・合格を達成し、全員進路決定という目標を達成した。就職では1月までに全員が内定し、進学では、生徒が望む大学への合格し、生徒一人ひとりの努力が実を結んだ。放課後の特別指導、小論文指導など、学校全体で取り組むことが出来た。	A	・一次合格率目標95%は未達でしたが、全員の進路が決まっており大変素晴らしいと思います。 ・進路状況がとても良好で素晴らしいと思います。 ・就職希望者・進学希望者共全員内定合格は素晴らしい成果だと思います。	○進路指導主事 3年学年主任・担任
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合90%以上 ★県外からの体験入学参加者数40名以上、入学者数20名以上	・教務部、情報管理部と連携を図り、学校ホームページ、体験入学等を通して高校魅力化の取組を推進する。 ・高校進学説明会等において、各工業科の特徴、ものづくりを紹介する。 ・SNS等を活用し、学校の魅力を中学校等に積極的に発信する。	B	・8月実施の体験入学へは、819名の参加があり、県外からは19名の参加であった。 ・本年度佐賀工業高校一級選抜の志願倍率は、建築科1.76倍、機械科1.57倍、電気科1.41倍と、県全体の平均1.02倍を大きく回る結果となった。この背景には、中学校へからの各課長による出張説明会をはじめとする広報活動を積極的に展開し、本校の特色や魅力を広く発信できた。次年度も継続して実施したい。	B	・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合、88.3%、教職員の割合81.9%であった。 ・今年度佐賀工業高校一級選抜の志願倍率は、建築科1.76倍、機械科1.57倍、電気科1.41倍と、県全体の平均1.02倍を大きく回る結果となった。この背景には、中学校へからの各課長による出張説明会をはじめとする広報活動を積極的に展開し、本校の特色や魅力を広く発信できた。次年度も継続して実施したい。	A	・自分の学校を中学生に勧めることができるに関して、アンケート結果からも目標を達成している。 ・多くの活動に取り組まれており、また良好な志願倍率という結果も伴っており、素晴らしいと思います。 ・今後は少子高齢化の時代です。工業高校は男子校とみなされているのが現状です。ただ今回女子が20%と聞いて驚きました。 ・社会では技術業務でも女子の数が増加しています。ものづくりに関して女子の興味が増える中、今後は工夫によっては女子の入学に期待がもてると思います。	○主幹教諭 各工業科主任 教務主任 情報管理部HP担当者
○部活動の充実	○部員を増やし、高校教育の目的(コミュニケーション能力の育成、幅広い人間関係の形成)及び、学校部活動等に関する総合的なガイドラインに沿った部活動の推進	○部活動加入率90%以上を目指す。部活動に入り、コミュニケーションがとれ、充実感を感じる生徒が90%以上を目指す。 ○外部指導者を2名以上確保する。 ○週当たり2日以上以上の休業日の設定を行う。	・部活動に所属していない生徒に入部の呼びかけを行う。 ・休業日調査の実施する。	A	部活動加入率は90%を超えており、多くの生徒が部活動を通して高校生活を充実させている。また、外部指導者の確保も順調に進み、生徒の指導にあっている。週当たり2日以上以上の休業日の設定も徹底されており、生徒の心身の健康にも配慮した活動ができている。	A	・生徒の90%以上が部活動や社会体育に所属し、外部指導者の協力も得ながら、活発に活動している。保護者アンケートでは、「生徒が部活動を通してより良い人間関係を築くことができている」という肯定的な回答が94%に達した。また、休業日の設定も徹底されており、生徒の心身の健康にも配慮した活動ができている。	A	・休業日を設定されるなど、昔とは大きく変わっていることが伺えます。 ・今後とも部活動の活性化を推進して頂きたいです。 ・社会に出れば、いくら優秀でも1人で生きていけません。コミュニケーション能力は欠かせない条件であると考えます。	○特別活動主任 部活動顧問

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望	・今年度も引き続き、学校教育目標を達成すべく、年度初めに重点目標を定め、各評価項目について取り組んだ結果、12項目中「十分達成できた」評価が、7項目(前年度は、8項目)であった。次年度も、この水準を維持出来るように取り組む。 ・令和7年度佐賀県立高等学校入学入学者選抜一般選抜における本校の志願倍率は、1.30倍(前年度1.16倍)であった。次年度もこの水準を維持出来るよう学校のPR活動に取り組む。 ・3年生全員の進路保障をする事が出来た。185名(77%)が就職、54名(23%)が進学であった。就職試験対策等の指導体制が確立しており、1次試験合格率は、92.9%であった。今後も継続して個々の進路に応じた指導と県内就職率増に取り組む。
----------------	--